

京都市小学校児童

水泳能力調査結果報告書

令和4年度

京 都 市 教 育 委 員 会
京都市小学校教育研究会体育部

令和4年度京都市小学校児童 水泳能力調査結果報告書

目 次

1	調査の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	今年度の結果と考察	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

調査の概要

1. 目的 本市小学校児童の水泳能力調査を行い、児童の水泳能力の実態を把握し、今後の水泳指導の基礎資料とする。
2. 対象 プール保有校の3年生以上の児童を対象に調査する。
2. 調査時期 令和4年度プール開設期間中
3. 調査方法 京都市学童水泳能力基準表(以下)により水泳指導終了時の記録を調査する。

京都市学童水泳能力基準表

※1級	クロール50m、平泳ぎ50m、どちらも泳ぐことができる
※2級	クロール25m、平泳ぎ25m、どちらも泳ぐことができる
※3級	クロールか平泳ぎ、どちらかで25m泳ぐことができる
4級	呼吸(息継ぎ)をしながら25m浮いて進める(泳げる)
5級	10m浮いて進める(泳げる)
6級	5m浮いて進める(泳げる)
7級	け伸び(2m程度)ができる

※高学年は1～7級、中学年は4～7級を調査報告の対象とする。

4. 令和4年度 標本数(人)

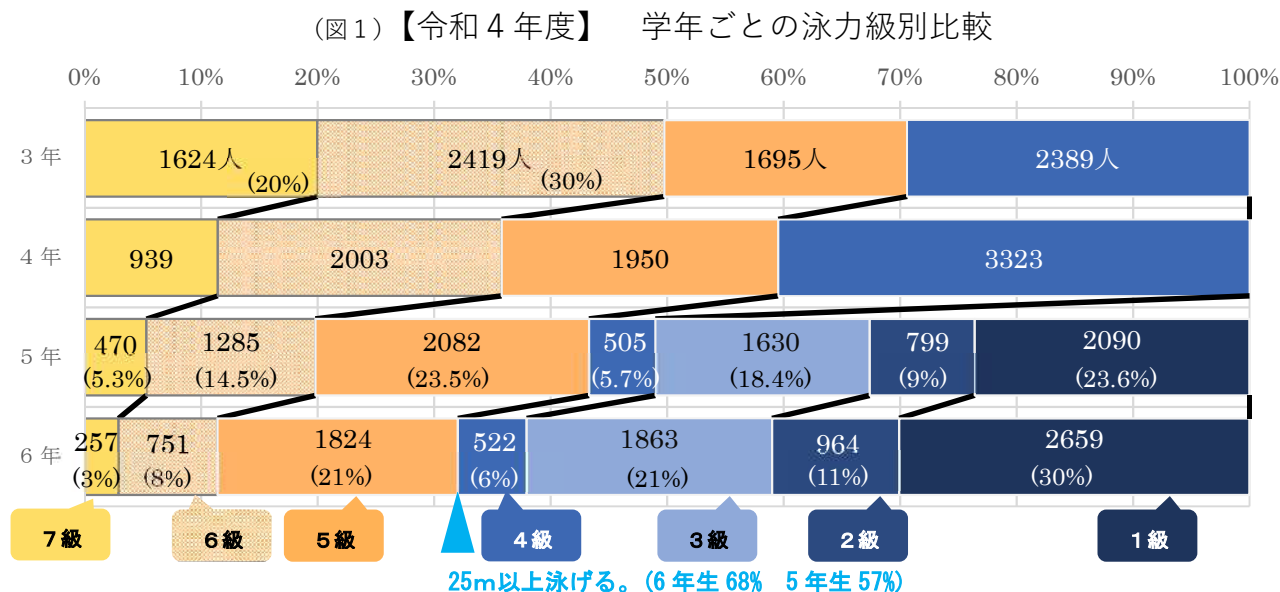
	男	女	計
3年	4,212	3,915	8,127
4年	4,220	3,995	8,215
5年	4,581	4,280	8,861
6年	4,644	4,196	8,840
計	17,657	16,386	34,043

5. 令和4年度 集計結果(人)

学年	性別	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級	計
3	男	769	1,164	929	1,350				4,212
	女	855	1,255	766	1,039				3,915
4	男	427	930	973	1,890				4,220
	女	512	1,073	977	1,433				3,995
5	男	205	591	975	288	872	423	1,227	4,581
	女	265	694	1,107	217	758	376	863	4,280
6	男	118	301	796	257	1,012	546	1,614	4,644
	女	139	450	1,028	265	851	418	1,045	4,196

1 今年度の結果と考察

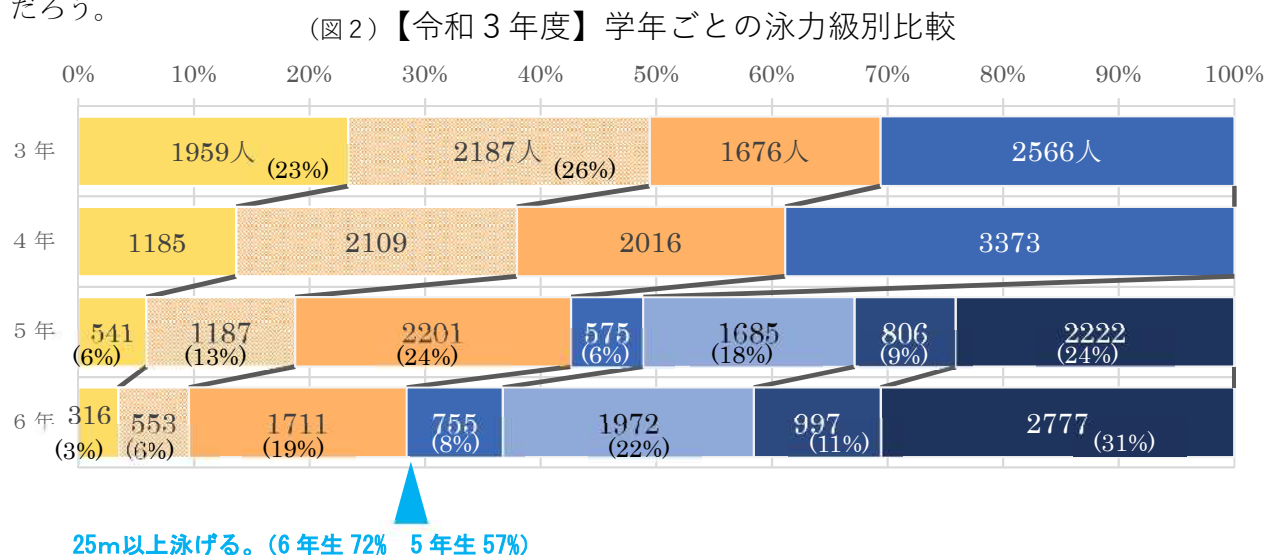
下のグラフ（図1）は、泳力級の割合を学年ごとに示したものである。



上のグラフの通り、学年が上がるにつれて6級や7級の占める割合が小さくなり、4級以上の割合が大きくなっている。学年とともに泳力が伸びていき、70%弱の児童が卒業までに25m以上泳ぐ力をつけることができている。なお、男女ともに同様の成長の様子だが、男子の方が1級に到達する児童の割合が多くなっている。①

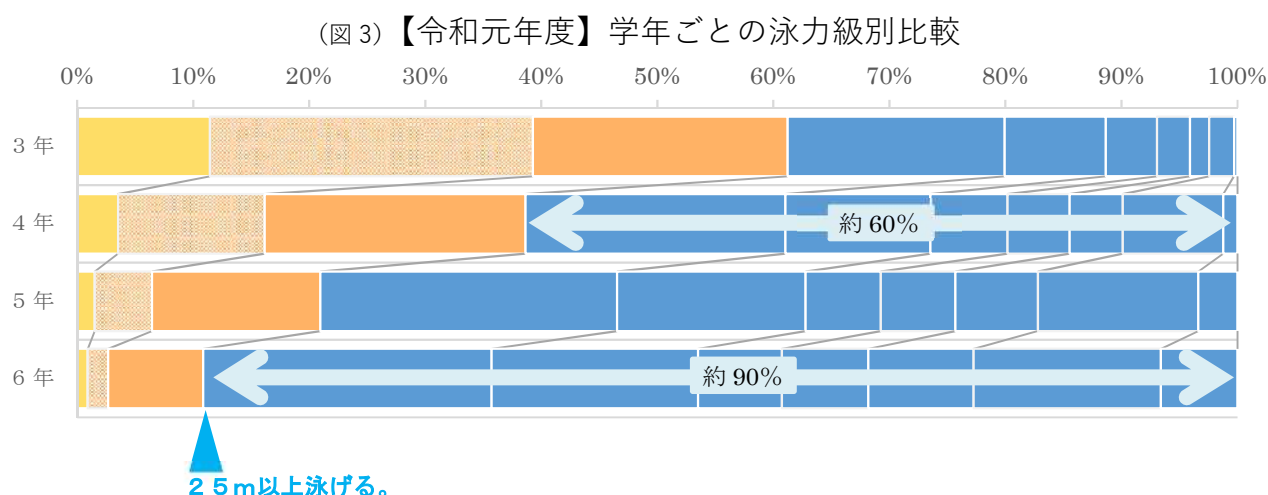
昨年度の調査結果（図2）と比較すると、令和4年度の3年生は、令和3年度の3年生よりも6級（5m以上泳げる）の割合が増え、7級の割合が減っている。平均してクラスに1人～2人、水の怖さを克服し、浮いて進むことができる児童が増えたことになり、水泳能力の向上が見られる。また、この結果の要因として、昨年度の3年生は新型コロナウイルスの影響により、2年生時に水泳学習を経験していなかったが、今年度の3年生は2年生時に水泳学習を経験できたことが影響を与えていると思われる。低学年の間に様々な水遊びを経験することで、児童が主体的に水に親しむことができると考えられる。

一方、高学年を見比べてみると、6年生で25m泳げる児童の割合が少し今年度の方が低いものの、5年生は同じで、大きな差はない。4年生は、6年生と同様に25m泳げる児童の割合が少し低下している。4年生は息継ぎを習得する時期であることを踏まえると、3年生で息継ぎを経験することや、4年生でいかに泳力を高められるかということが、高学年で泳力を伸ばすための重要な課題になるだろう。



その根拠を示すためにも、令和元年度の結果（図3）と比較する。昨年度の考察から、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために令和2年度の水泳学習を中止したことにより、およそ1学年分の遅れが出ていることが分かっている。

4年生について見てみると、令和元年度では25m以上泳げる児童が約60%いるのに対し、今年度は40%弱にとどまっている。やはり1学年分の差が残ったままである。さらに6年生について見てみると、令和元年度には約90%の児童が25mを達成していたのに対し、令和4年度では25mを達成した児童は68%にとどまっている。これは令和元年度の5年生の泳力にも達していない状態であり、32%の6年生は小学校期に25mを泳ぐことができない状態で中学校へ進学することとなる。



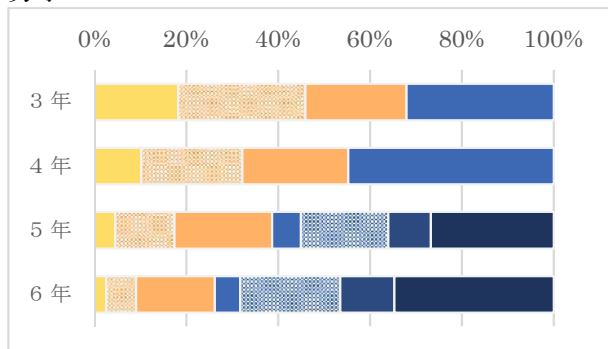
令和4年度は感染対策を講じるために1コマ当たりの遊泳人数が制限されたこと、7月上旬に雨天が多くなったこと等により、授業時数が十分確保できなかった学校も少なくない。その影響を受けて、令和2年度1年分の学習不足を補えていないのが現状である。

京都市の水泳学習は、低学年で水の怖さを克服して水に慣れ親しみ、中学年で初歩的な泳ぎや息継ぎを経験し、高学年で泳法を習得するといった段階を丁寧に、かつ、着実に積み重ねることを大切にしている。現状の課題を解決するためには、これに加えて、1年間の遅れを取り戻すための工夫を加えることが必要である。

例えば、カリキュラムマネジメントによって3・4年生の水泳学習の時数を増やすことや、5・6年生の安全確保につながる運動の一環として息継ぎを取り入れること。水泳学習の補習を行うのであれば、その対象を低学年の「もぐる・浮く」のできない児童にすることなどが考えられる。各校の実態に合わせた工夫を施し、児童の泳力向上を目指した取組が必要だ。

【資料】

① 令和4年度 男女別、学年ごとの泳力比較
男子



女子

